

## まちづくり計画策定部会 2012-2013 新旧引き継ぎ会議議事録

時所：2013年5月11日（土）午前10時～12時 コミュニティルームA

出席：蘆江、清水(博)、十河、草場、三村、福岡

森、吉山、和田(圭)、和田(園)、武藤、柳原（記録）、森岡、山田(秀)

欠席：安井、矢口、大矢、横山、下野

### 議題

1. 現理事から新理事候補への活動成果と課題の承継のため本会合を開催した。  
出席者全員の自己紹介から始めた。
2. 「東丘版コミュニティ・スクールの検討」について  
蘆江部会長より、資料をもとに2012年度の活動報告と2013年度の活動計画が報告された。
3. 「各団地に共通ないしまたがる課題の解決の検討部会」について  
清水副部会長より資料をもとに同じく報告があった。  
なお、2012年度第8回部会にて、2013年度は次の3つの課題に引き続き取り組んでもらうことを決定した。
  - ①高齢者問題（介護施設の誘致、老人クラブの設置支援、一人暮らし高齢者対策）
  - ②拠点整備
  - ③環境整備他
4. 「地域づくり計画策定部会」は「まちづくり計画策定部会」と改称することとした。
5. 質疑応答

#### (1)東丘版コミュニティ・スクールについて

学校と地域が一体となって子どもを育てることを理想とするが、国が進めている施策（コミュニティスクール）とはかなり開きがある。

東町は人工的に「作られた町」で、神社、寺社など旧来型の住民の拠り所がない町である。そこで、町の中心となり、元気にしていく拠り所は学校であろうとの発想をスタートに検討を始めた。

将来は小中高一貫校の千里学園の設置を思い、阪大との連携、ノーベル賞受賞者の輩出という夢を描き検討を進めてきたが、豊中市市民協働部の姿勢に積極性が見られないこと、八中の学力レベルや部活の少ないことなど検討課題が山積しており、実現性に疑問が生じつつある、というのが正直なところである。

第八中学校の生徒数を増やすことも課題の1つだが、北丘小に加え、西丘小が加わるとなると難しさも増す。第八中学校側との話も進んでいない。

#### (2)活動拠点づくりについて

東町の活動拠点については、2012年度理事会にて必要性を確認し、2013年度前半に場所、機能などを検討、後半から実施することを決定している。拠点の場所の候補としては、コミュニティルームの他、旧街角広場跡（近隣センター東北角）、東町会館の1階交番跡の隣ないし2階和室がある。当部会が最初に取り組むべき課題であるが、一方、コミュニティルーム運営委員会にとっても関わりがあるので、この課題について議論するため5月7日運営委員会を開催した。だが委員の関心は薄く、コミュニティルームの現状が何ら不都合がないのに現状を変える必要があるのかと

の意見もあった。しかしながら、当運営委員会の本来の目的に照らし再考し、アドプトロード清掃管理業務の協議会移管を提案すること、拠点の場所の候補の一つであることから当部会の活動への参加を決定した。なお、運営委員として子ども教室、PTA など実際にコミュニティルームを利用している団体に参加頂きたいので、申し入れすることとなった。

(3)環境改善について

こぼれび通りのあかしやの倒木問題やもみじ橋通りの雑木林、深谷グランド法面の整備、補修の問題は早急に手を打つべき課題であり、行政側は協議会からの申し入れを待っている状態である。出来る物から優先順位を決めて、見える形で取り組むことが大事。

その点では、環境整備は住民の意見をまとめ易く、行政への働きかけも具体的にできる。自治協議会の見える実績づくりとして早速実行するべき。

6. 当部会の構成と部会長、副部会長の選出

当部会の活動を分科会的に並列的に行うのではなく、緊急性を考慮し重点的に行うことを決定した。その中で、当面緊急対応する課題を、地域拠点の整備と環境整備とすることとした。しかし、他の課題についても水面下で活動を進めることとし、課題毎にゆるやかな関係性のグループ編成をし、その活動を担当副部会長に進めて頂くことも決定した。

・まちづくり計画策定部会の組織：

部会及び部会の課題	長	メンバー
まちづくり計画策定部会	森健吾部会長（協議会副会長兼務）	
高齢者問題	安井副部会長	清水(博)、吉山
東丘版コミュニティ・スクール	和田(園)副部会長	十河、和田(圭)
拠点整備、環境整備その他	森副部会長	横山、福岡、下野、武藤、柳原

(注1) 議事録作成は柳原。但し、課題別に行われる会合の議事録作成は担当外。

(注2) 拠点整備の検討に参加頂きたい諸団体と代表…本部会とは別の場の議論より東町会館（寺村、山地、石丸他）、コミュニティルーム運営委員会（ ）、街角広場（太田）、PTA（ ）、こども教室（ ）

7. 次回、まちづくり計画策定部会

6月9日（日）午前10時～ コミュニティルームA

以上

# まちづくり計画策定部会

## 拠点整備分科会第1回会議、議事録

2013年6月4日（火）午後7時～9時 コミュニティルームA

出席：小川会長、森部会長、寺村、山地、石丸、太田、事務局：武藤、柳原（記録）  
高野

1. 今年度の初会合に際し簡単な自己紹介の後、事務局、武藤より、分科会の主旨説明が行われた。

主旨説明の要約

東町の活動拠点（仮称、東町サロン）の整備については、昨年度2回のラウンドテーブルを実施して議論を重ねた上で、3月の理事会に設置の方向付けを諮った。

今年度は上半期に必要な機能と設置場所の条件を整理し事業計画を策定した上で下半期から試行的な運用を目指すことを理事会の承認を得て予算の裏付けを起こした。

この分科会は、（仮称、東町サロン）の「機能と設置場所の条件を整理し事業計画と実施スケジュールを策定」するのが目的です。

拠点となる、場所については現在、以下の4カ所があるが、それぞれの課題を検討する。

- ※ コミュニティルーム
- ※ 東町会館
- ※ 街角広場
- ※ 旧街角広場（近隣センター北西角）

2. 議論の進め方に付いて以下の意見交換があった。

・（仮称、東町サロン）の必要性についてまだ理解が進んでいない。

理事の中でも議論が満たされておらず、住民の間には、その必要性についての情報が伝わっていない。新任の理事さんで今日初めて分科会出席の方には何を議論しているのか認識できないのではないかと。

先ず、必要性について、認識を共有し、将来有るべき姿を描いた上で、その実現への進め方、方向性（ステップ）を次の理事会で報告するのが今日の会議の目的ではないか。十分な議論なしに、拠点有りきで、進めていくのは問題がある。

・地域自治が機能していくためには拠点が必要なことは既に誰もが認めていることである。地域での役割によって、それぞれに必要な機能が求められる。1年以上も議論を重ねてきた事であり、拠点の整備は前に進めるべきだ。作る前から全住民に必要性を理解して貰うのは不可能で、その必要も無い。拠点での活動が見える形になれば自然と住民の理解は深まるのではないかと。

・福祉委員会で以前、住民の相談窓口を作ろうとしたが、東町には拠点が無い。そこで、東町会館の管理人室の一部を借りて、相談窓口を設置した。狭いところだが此はこれで機能している。出来ることから前に進めたら良いと思う。

・東町には、地域の拠点として、街角広場やコミュニティールームがあり、それぞれの役割、機能を整理しておく必要がある。

・必要性を理解して貰う事は重要です。文章で訴えてもなかなか理解して貰えない。解りやすい図式にして説明をした方が効果的です。また、他市の事例なども参考資料として提示するのもよい。理解して貰う努力が大事、効果的にやる事が大事。

・以上の様な意見交換の後、(仮称、東町サロン)の必要性については、参加者全員が合意した。

3. 議論を経て、進め方を取り決め次回理事会に諮ることにした。

- ① “仮称、東町サロン”のイメージを図式化し、必要性を理事会はじめ自治会・各団体及び住民の皆さんに理解・認識してもらえるようできる限り丁寧な説明を行う。図式化については、太田さんをお願いした。
- ② “何をやりたいのか”を協議会(拠点整備分科会)の中で明確にする。条件(場所、面積、費用、家賃等)により設置する備品、機材、機能などを具体的に描く。試案を寺村さんをお願いをする。

4. 次回分科会の開催

6月13日(木)午後7時～ コミュニティールームA

6月16日の理事会に報告(提案)する内容をまとめる。

## まちづくり計画策定部会

2013年6月9日（日）午前10時～ コミュニティルームA

出席：森部会長、十河、清水（博）、高野、福岡、吉山、和田（圭）、和田（園）

事務局：武藤、柳原（記録）

欠席：安井、下野、横山

1. 森部会長より、6月4日の拠点整備分科会議事録について。  
この中で、東町の拠点（仮称、東町サロン）の必要性について、理事会（住民）に理解をして貰うためには更に丁寧な説明が要るということになり、街角広場、運営委員長の太田さんに、解りやすく図式化した資料を作って貰った。これをもとに6月13日の拠点整備分科会で検討の上、6月16日の理事会に諮るという説明が資料をもとに報告された。
  - ① 具体的な拠点の設置場所について、旧街角広場が議論の対象になった。場所としては最適であるが、面積、賃貸契約について問題が指摘された。  
なにより、家賃負担について、今後数年間は年間70～80万円をこのために費やすことについて理解が得られるか。地域自治組織として先進的に取り組む東町の事例として今後他の町に影響を与える、税金の使い方の先例ともなる。
  - ② そこで、東町会館東隣の交番跡地をもう一度検討してはどうかとの提案があった。  
現在、ここは資材置き場の条件で、タウン財団より半年ごとの再契約により無料で使用させて貰っている。
  - ③ 旧街角広場の賃貸契約に入る前に、交番跡地が協議会の拠点として使わせて貰えないか可能性を今一度確認するために交渉する。  
交渉には、福岡市議員を中心に以前借用の要請に携わった連絡協議会時代の方をお願いすることになった。
  - ④ 他の候補地、東町会館一階事務室（現在、塾に有料貸し出し、会館の運営費の源費となっている）旧街角広場、現街角広場は一つずつ可能性と条件を確認しながら順番に進めることにした。
  - ⑤ 「仮称、東町サロン」の全身となる、拠点の名称を「東町交流室（交流ルーム）」とする。  
前

## 2. 環境整備分科会

武藤コミュニティルーム運営委員長より、アダプトロードの役割を環境整備分科会に移管出来ないかとの提案があった。

- ① まちづくり計画策定部会は計画の策定がミッションであり、実働部隊ではない。環境整備分科会で「環境整備部会」を早急に立ち上げることにする。
- ② 「環境整備部会」立ち上げの準備として先ず、東町の環境の課題を見て歩く「まちあるき」を実施する。7月1日発行の「ひがしおか」76号に参加者を募る記事を掲載する。町歩き終了後に、「環境整備部会」の組成について話し合い、準備委員会を発足する。

町歩き実施日 7月15日（海の日）9時集合

集合場所、コース等適時会合を持って決める。

- ③ 「環境整備部会」に於いて、懸案の環境問題を理事会に諮り、東町の総意を纏めて一つ一つ解決していく。
  - ④ 「環境整備部会」発足後にアダプトロード業務の受け入れ、また府、市の美化清掃協力要請などの窓口となる。
3. 都市機構立て替えに伴う、老人介護施設の誘致について。  
先に、豊中市に要請をした件は既に市長のもとにまで届いている。  
6月12日豊中市訪問の折には、URの担当者を招いてくれていることになっている。  
今後は、両者と連携して協議ができるものと期待している。
4. アカシヤ橋下付近の横断による交通事故対策について。  
早急な対応が必要な案件なので、6月16日の理事会に取り上げ欲しいとの提案があった。

## まちづくり計画策定部会

### 拠点整備分科会代 2 回会議、議事録

2013 年 6 月 13 日（木）午後 7 時～9 時 コミュニティールーム A

出席：森部会長、小川協議会会長、高野、寺村、山地、太田、事務局：武藤、柳原（記録）

欠席：横山、下野、福岡、石丸

1. 6 月 9 日第 2 回まちづくり計画策定部会での議論を、議事録をもとに事務局、武藤氏より説明された。
2. 拠点整備（東町交流室（交流ルーム））の設置について、6 月 16 日の理事会で説明する資料の検討をおこなった。目指すイメージとスケジュール、体制を示す事とした。
  - ① 太田さんのまとめた東町全体の地理的条件と交流室の位置付けを描画した案。
  - ② 寺村さんの交流室の具体的な機能と備品の配置図。
3. 交流室設置の説明資料をもとに理事会で設置の承認を取り付け、7 月中に設置場所を決定し、10 月より運用を開始することとする。
4. 旧交番跡は、この 6 月 30 日で、更新日を迎える。現在福岡議員を中心に、交流室として借りる再契約が可能か、交渉中である。可能であれば、交流室の設置場所に決定する。
5. 旧交番跡が可能性無しとなった場合は、旧街角広場の賃貸契約交渉を始める。その際、歳脇さんに拠点整備分科会のメンバーに加わって貰えるよう要請する。
6. 理事会での承認を得た後、次の分科会で拠点整備分科会の位置づけと、誰が何をするのかメンバーの立場と役割、責任を明確にする。
7. 次回拠点整備分科会は 6 月 16 日の理事会終了後に決定する。